（４６）ぶどう

（ア）病害

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
越冬病害虫 ４月下旬～５月下旬 （休眠期）	薬剤防除 １．枝幹散布 主幹の粗皮を剥いだあと十分に散布する。
共通事項	薬剤防除 １．６月中旬（開花２週間前）頃は薬害の発生しやすい時期であるので、気温に注意する。 ２．７月下旬～８月上旬の薬剤散布は、果房を汚染しやすいので細霧とし、噴口を果房から十分離して散布する。 ３．特に収穫前は果実汚染に気をつける。
つる割細菌病	発生条件 １．本病は高湿度条件により助長されるので、風通しの悪い園地や多湿条件が長く続く場合に発生しやすい。 薬剤防除 １．開花前から本病の発生が懸念される場合、開花期を含む前後に 10 日間隔で３回、薬剤を散布する。
晩　腐　病 ７月下旬～６月中下旬	薬剤防除 １．ぶどうの他病害に指導している殺菌剤を参照する。
黒 と う 病 ５月上～中旬 （休眠期） ６月中旬～７月上中旬	耕種的防除 １．罹病樹のせん定枝及び巻づるは必ず集めて、園外に出し適正に処分する。 薬剤防除 １．樹冠散布
褐　斑　病 ６月中旬～８月上旬	薬剤防除 １．樹冠散布
灰色かび病	耕種的防除 １．キャップ（花冠）を除去する。 ２．罹病果粒は発見次第摘除する。

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
６月中旬～８月中下旬	薬剤防除 １．樹冠散布
べ　と　病 ６月中旬～８月中下旬	薬剤防除 １．樹冠散布

(イ)(ｱ)害虫

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
共通事項	薬剤防除 １．６月中旬（開花２週間前）頃は薬害の発生しやすい時期であるので、気温に注意する。 ２．７月下旬～８月上旬の薬剤散布は、果房を汚染しやすいので細霧とし、噴口を果房から十分離して散布する。 ３．特に収穫前は果実汚染に気をつける。
ブドウスカシバ 生育期 ５月中旬 ６月中旬～７月中旬	耕種的防除 １．虫糞の出ているところを発見しだい幼虫を捕殺する。 薬剤防除 １．枝幹散布 ２．樹冠散布
コウモリガ 生育期	耕種的防除 １．虫糞の出ているところを発見しだい幼虫を捕殺する。 ２．樹幹や支柱の根元の雑草繁茂が幼虫の食入を助長するので除草し、通風を良くする。
ハマキムシ類 ６月下旬	薬剤防除 １．枝幹散布
コガネムシ類 ７月上旬～７月中旬	薬剤防除 １．ぶどうの他害虫で指導している殺虫剤を参照する。
サルハムシ類 ７月下旬～８月上旬	薬剤防除 １．ぶどうの他害虫で指導している殺虫剤を参照する。
フタテンヒメヨコバイ	薬剤防除

病害虫名及び防除時期	防除方法及び注意事項
5月中旬 6月中旬～7月中旬	1．ぶどうの他害虫で指導している殺虫剤を参照する。
チャノキイロアザミウマ 7月上旬～中旬	薬剤防除 1．樹冠散布
カイガラムシ類 5月中旬	薬剤防除 1．枝幹散布
ブドウツヤケシゾウムシ 6月下旬～7月下旬	薬剤防除 1．樹幹散布
カスミカメ類 展葉始～随時	薬剤防除 1．樹幹散布 （1）同一薬剤の連用は避ける。 （2）発生初期のうちに防除する。
ハダニ類 7月上旬～8月上旬	薬剤防除 1．樹冠散布 （1）同一薬剤の連用は避ける。 （2）発生初期のうちに防除する。

（ウ）醸造用ぶどうの有機栽培における病害虫の発生実態及び防除の改善策対策

1．重要病害虫

有機栽培で問題となる重要病害虫は、黒とう病、灰色かび病、べと病、晩腐病、ツマグロアオカスミカメ、ブドウスカシクロバ、ブドウハモグリダニ、マメコガネ、イッシキブドウトリバである。

2．耕種的対策

（1）架線を含め園地内に罹病残さを残さない。

（2）キャップ（花冠）の除去は灰色かび病の被害軽減効果がある。

3．薬剤防除

（1）有機栽培で使用可能な薬剤で防除する場合には、適正な水量で散布するとともにぶどう垣根の両側から散布し、薬液が十分に付着するように散布する。

（2）ブドウスカシクロバは、若齢幼虫の食害が確認される時期（6月3半旬頃、園地内で成虫を見かけた 10～14 日後）と6月4半旬の2回 BT 剤を散布す

る。

（エ）クリーン農業技術（病害虫防除関係分）（ぶどう）

〇発生モニタリングによる効率的防除

・ほ場観察による発生モニタリングで適期防除

〇化学的防除の効率化

・休眠期の機械油乳剤散布によるカイガラムシ類の越冬雌成虫の削減

〇耕種的防除

・ハウス栽培：開花期以降の十分な換気（湿度を低下、べと病、黒とう病の発生を抑制）

・抵抗性品種の利用

※栽培に当たっての留意事項

〇ハウス栽培では灰色かび病、褐斑病が発生しやすいので注意すること。

〇「キャンベルアーリー」、「デラウェア」では花穂の灰色かび病、褐斑病が発生しやすいので注意すること。

〇醸造用ブドウはべと病、黒とう病に弱いので注意すること。

〇剪定・着果・肥培管理による適正な樹勢管理を行うこと。（通気性がよく薬剤散布ムラのない樹形、余分な枝の剪除）

〇降雨、湿潤条件で多発する病害が多いため、天候に対応した防除間隔・防除薬剤を選択すること。

※注釈

●抵抗性品種の利用

・べと病：欧州系品種（道内では醸造用品種のみ）は米国系品種（道内では）生食用品種及び醸造用品種「セイベル系」）に比べて弱い。

・灰色かび病：花穂の発病は「キャンベルアーリー」、「デラウェア」で多い。

・黒とう病：欧州系品種で発生が多い。

●無核化が必要な品種に対して、ジベレリンの使用

・ジベレリンが使用できる品種：バッファロー、デラウェア

処理後降雨（20㎜以上）があると再処理が必要となるため、降雨が予想される場合は行わずできるだけ晴天時に行う。樹勢の強すぎる樹や弱すぎる樹には処理を行わない。２回目処理では、薬液が付着しすぎると果面が汚れることがあるので、処理後果房を揺するなど余分な薬液を落とす。